

創立100周年記念 第74回日本生物工学会大会 ランチタイムセミナー ご案内・申込書

第74回日本生物工学会大会 実行委員会 実行委員長
大政 健史(大阪大学大学院工学研究科 教授)

拝啓 貴社におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、第74回日本生物工学会大会が、2022年10月17日より20日までの4日間、オンラインとして開催する運びとなりました。本大会には、全国の大学・国・公立・民間の研究機関等より約1,600名の研究者が集まり、熱のこもった議論をされると期待されます。

大会の昼食時に、企業の宣伝と学会のレベル向上を同時に達成することを目標とし、大会参加者に参加企業の最新の技術や解析方法の解説、紹介をしていただくランチタイムセミナーを開催することに致しました。

貴社におかれましては、本会の趣旨をご理解いただき、相応しい企画がありましたら奮ってご参加いただきたく、ご案内を差し上げる次第です。是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬具

【 実施要項 】

※今回のランチタイムセミナーは、次頁からのシンポジウム予定をご覧の上、ご希望の日程を選ぶことができます。
なお、先着順となりますのでご了承ください。

日 時： 2022年 10月18日(火) ~ 20日(木) 大会の昼食時間帯(50分をセミナー時間として予定)
形 式： オンライン Zoom
募 集 枠 数： 1日 4枠を並行開催

共 催 費： 附設展示会出展企業、関連企業 及び アカデミア※ 275,000円(消費税込)
※アカデミア: 大学や公的機関の研究施設等、大学発ベンチャー企業(大学名表記必須)
共催費には、**大会参加章2枚、要旨集1冊(大会後送付)、大会HPバナー広告(ロゴマーク)**を含みます。

申込締切日(予定): 2022年 7月 15日
演題、演者、内容等が未定の場合でも上記締切日までに申込書をお送りください。

原稿締切日(予定): 2022年 8月 19日頃を原稿の締切日予定にしております。
ご提出いただく原稿は、①要旨集に掲載します「講演要旨原稿:A4判 1ページ 白黒」の原稿(PDF)と、
②大会ホームページ等で掲載する演題名、演者、座長名などテキスト原稿をご用意ください。

申込・お問合せ： 株式会社エー・イー企画 第74回日本生物工学会大会展示会係
Tel. 03-3230-2744 Fax. 03-3230-2479 E-mail. sbj2022@aeplan.co.jp

キャンセルポリシー： 申込みの際は下記ポリシーにご同意いただいたうえでお申込みください。
申込み受理後は、実行委員会が不可抗力と認めた事故以外は原則解約することはできません。実行委員会が解約を認めた場合でも、解約理由を書面にてお送りいただき、受領した日を基準として解約料金をお支払いください。
※解約料金
申し込み締切日以前に受領した場合…請求額の50%をお支払いください。
申し込み締切日以後に受領した場合…請求額の全額をお支払いください。
天災・その他のやむを得ない事情、並びに主催の責任に帰し得ない原因により、大会および展示会等の開催を変更・中止する場合があります。この変更により生じた協賛各社の損害は補償できかねます。前述の原因により開催中止を決定した場合には、主催は協賛各社に対し、会期前に納入された協賛費から準備費用を除いた金額を算出し、ご返金致します。

◆その他： 1. このランチタイムセミナーは実行委員会との共催といたします。ご参加にあたっては、単なる製品説明ではなく、背景となる原理・理論の解説を丁寧に行ったり、あるいは役立つ応用例の紹介を中心としたりして、魅力ある新製品・新技術の解説講演になるよう工夫をこらしていただくと幸いです。
2. 本ランチタイムセミナーと関連し、より具体的な個別の説明の場として、「オンライン展示会」のご活用も併せてご検討ください。

10月18日（大会2日目） シンポジウムスケジュール

12:00-13:00 ランチタイムセミナー	13:30-15:30 シンポジウム	16:00-18:00 シンポジウム
<p>枠1</p>	<p>若手とシニアで語る生物工学の未来【本部企画・生物工学若手研究者の集い】</p> <p>青木 航(京都大)・蟹江 慧(名古屋大)・曾宮正晴(大阪大)・三浦夏子(大阪公大)・中島一紀(北大)・徳山健斗(中外製薬)</p>	<p>若手研究者のこれからの「活躍の場」を語ろう【本部企画・生物工学若手研究者の集い】</p> <p>青木 航(京都大)・蟹江 慧(名古屋大)・曾宮正晴(大阪大)・三浦夏子(大阪公大)・中島一紀(北大)・徳山健斗(中外製薬)</p>
<p>枠2</p>	<p>未来産業の創造に向けた産学官連携プラットフォーム【本部企画】</p> <p>林 圭(三和酒類)</p>	<p>生体分子の相互作用における曖昧さの意義</p> <p>堀 克敏(名古屋大)・高木昌宏(北陸先端大)・中村 史(産総研)</p>
<p>枠3</p>	<p>先端バイオ分析の新潮流</p> <p>座古 保(愛媛大)・上田 宏(東工大)・梅野大輔(早稲田大)</p>	<p>高度に生体を模倣した細胞培養技術「Microphysiological System (MPS)」が拓く未来社会</p> <p>清水一憲(名古屋大)・堀江正信(京都大)</p>
<p>枠4</p>	<p>持続発展可能な未来社会を創造するバイオプラスチックの最前線</p> <p>笠井大輔(長岡技科大)・福居俊昭(東京工大)・本田孝祐(大阪大)</p>	<p>光スイッチ型海洋分解性の可食プラスチックの開発研究</p> <p>金子 達雄(北陸先端大)・川口 秀夫(神戸大)・加藤 太一郎(九州大)</p>

10月19日（大会3日目） シンポジウムスケジュール

12:00-13:00 ランチタイムセミナー	13:30-15:30（予定） シンポジウム	16:00-18:00（予定） シンポジウム
枠5	シンポストバイオの潮流～腸内代謝物の有益性と商品化 松山彰収（ダイセル）	健康長寿に貢献するこれからの醸造発酵技術【本部企画】 赤尾 健（酒類総研）・章 超（霧島酒造）・秦 洋二（月桂冠）
枠6	KSBB-BEST-SBJジョイントシンポジウム，物質生産【本部企画・国際シンポジウム】 藤山和仁（大阪大）	アジアにおけるバイオプロダクションの現状と未来 ～SDGsの達成を目指して～【国際シンポジウム・関西支部】 大橋貴生（摂南大）・石井 純（神戸大）
枠7	ゲノム編集食品の未来を語り合う ～技術から法規制、実用化事例まで～【関西支部】 柴田裕介（菊正宗）・岡野憲司（関西大）	植物由来のバイオプロダクションの新潮流 岡澤敦司（大阪公大）・田口悟朗（信州大）
枠8	加速する次世代抗体の実用化に向けた取り組み 上平正道（九州大）・大政健史（大阪大）	KSBB-BEST-SBJジョイントシンポジウム，医療【本部企画・国際シンポジウム】 藤山和仁（大阪大）

10月20日（大会4日目） シンポジウムスケジュール

12:00-13:00 ランチタイムセミナー	13:30-15:30 シンポジウム	16:00-18:00 シンポジウム
梓 9	<p>生物工学会英文誌JBBのあゆみとこれから【本部企画・国際シンポジウム】</p> <p>神谷典穂（九州大）</p>	
梓 10	<p>産学連携シンポジウム（培養・計測）【本部企画】</p> <p>児島宏之（味の素）</p>	<p>生物工学が拓く未培養微生物（微生物ダークマター）の未来</p> <p>青柳秀紀（筑波大）・堀之内 貴明（産総研）</p>
梓 11	<p>バイオエコノミーに資するバイオ×デジタル融合型の次世代研究プラットフォームの創出</p> <p>近藤昭彦（神戸大）・蓮沼誠久（神戸大）</p>	<p>科学者のWell-beingのための志向倫理【本部企画】</p> <p>石井正治（東京大）・片倉 啓雄（関西大）</p>
梓 12	<p>最先端の代謝研究が解き明かす解糖系の深淵 — Otto Meyerhof ノーベル賞受賞100周年によせて —</p> <p>渡辺大輔（奈良先端大）・三浦夏子（大阪公大）</p>	<p>グローバルバイオで達成するカーボンニュートラル</p> <p>古賀雄一（岡山理大）・河原崎 泰昌（静岡県大）・仲嶋 翼（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）</p>

